

地質62 ジオパークに行こう！

地質担当 若松 斉昭

当館では、令和7年3月22日（土）から6月1日（日）まで企画展「ジオパークに行こう！」を開催します。開催に先立って、ジオパークの基礎知識や県内にある3つのジオパークの概要について紹介します。

ジオパークって何？

ジオパーク（Geopark）とは、大地を意味するジオ（Geo）と公園を意味するパーク（Park）を合わせた造語です。ジオパーク内には、地質・地形・自然・歴史・文化など、そのジオパークを特徴づける見学場所として、ジオサイトが設けられています。

私たち人間は、動物や植物といった生き物たちとともに、大地の上で暮らしており、地形や地質は人々の暮らしや文化と密接に関わっています。ジオパークでは、その地域に特徴的な地形・地質（地質遺産）を保護しつつ、大地の成り立ちや人々との関りを学んだり、地質遺産を活かしたジオツーリズムを実施したりすることで、地域の持続的な発展を目指しています。

2025年1月現在、日本ジオパークは48地域あり、そのうち10地域がユネスコ世界ジオパークに認定されています。鹿児島県には、「霧島」、「桜島・錦江湾」、「三島村・鬼界カルデラ」の3つのジオパークがあり、北海道の6つ、秋田県の4つに次いで都道府県ごとの数では第3位の多さです。鹿児島は大地の成り立ちと人々との関わりを学べる、貴重な地質遺産を数多く有している県だと言えるでしょう。

霧島ジオパーク

霧島ジオパークは、宮崎県と鹿児島県にまたがる霧島山を中心とした地域にあり、2010年に認定されました。大小20あまりの火山からなる霧島山の美しく壮大な景観と多様で豊かな自然、そして火山に対する畏敬の念を今に伝える



霧島神宮

信仰や文化が魅力です。2022年に社殿が国宝に指定された霧島神宮も、度重なる火山活動によって移転を繰り返してきました。

桜島・錦江湾ジオパーク

桜島や鹿児島湾（錦江湾）奥の若尊カルデラを中心に、その一帯を範囲とする桜島・錦江湾ジオパークは、2013年に認定されました。錦江湾奥部は、約2万9000年前の巨大噴火で生じた始良カルデラで、この時噴出した火砕流堆積物がシラスと呼ばれています。その後始良カルデラの南端にできた桜島は、活発な活動を続けています。噴火を繰り返す活火山のすぐそばに人口60万人の都市があることから、活火山と人との共生が大きなテーマになっています。



城山展望台からみた桜島

三島村・鬼界カルデラジオパーク

薩摩半島の南端から約50km南に位置する3島（竹島、硫黄島、黒島）と鬼界カルデラの海域を範囲とする三島村・鬼界カルデラジオパークは、2015年に認定されました。縄文時代の約7300年前に起きた巨大噴火とその後の火山活動が作った地形・地質などの自然と、そこに暮らす人々との関わりが主な見どころです。ジオパークの総人口が400人足らずと、日本はもちろん、おそらく世界最小のジオパークであることも、このジオパークの大きな特徴となっています。



硫黄島の長浜湾

企画展「ジオパークに行こう！」では、このほかにも、日本ジオパーク認定を目指す喜界島をはじめ、県内各地にある地質遺産を紹介します。ぜひご来場ください。